３年生の小北剛君と日当瀬仁君が「第２三恵園」での体験をもとに

「総合的な学習の時間」で発表しました。

このことが２月１２日（土）の産経新聞に掲載されました。

きずな

「三恵園」日記

高校生が見た障害者施設

「障害者施設ではどんな仕事をしているのだろう」。高校生2人がこんな疑問をもとに施設を調査し学校で発表した。

府立能勢高校3年の小北剛志君(18)と日当瀬仁君(18)。発表したのは校内の学習発表会で、他の生徒が国際交流や環境問題などをテーマに選んだのに対し、2人は障害者入所施設「第2三恵園」（能勢町）の支援現場を取り上げた。

実は小北君のお母さん、みどりさんは同園で支援員をしている。日当瀬君はお姉さんが同園を利用している。ともに幼いころから園に来たことはあるが、「改めて考えると、どんなところか知らないことに気づいた」。昨年11月同園を訪れ、廊下や食堂、浴場や利用者の暮らす居室などを調査した。

館内に入ると、利用者と職員が体操をしていた。「氷川きよしのズンドコ節」にあわせて歌って踊ってと、にぎやか。利用者も職員もみんなニコニコ笑っていた。

階段にはクッション材が敷かれていた。高齢の利用者が多いので転んでもけがをしないように、との説明に「細かなところにも工夫していて感心した」と小北君。リフトを設備した機械浴槽で日当瀬君は「体が不自由な人はこんな方法でお風呂に入るのか」と驚いた。

職員へも取材しての2人の発表は、3年生38グループの中でみごと最優秀賞を獲得。審査委員長の真鍋政明校長は「ネットで調べただけの発表が多い中、実際に現場に足を運び、目と耳でよく調べた」と評価する。

「人が人とかかわる仕事なのでしんどさはあるがやりがいがある、というお母さんの言葉が実感できた」と、小北君はお母さんをちょっと見直した様子。日当瀬君は「どの障害者も一人ひとり個性が違う。それを理解してその人にあった支援を心がけているという職員さんの話を聞き、お姉さんが施設のことを楽しそうに話す理由がわかった」という。

こんな2人にみどりさんは「ちょっとたくましくなったみたい」。

第2三恵園で発表報告をする小北君（左）と日当瀬君

産経新聞厚生文化事業団（http：／／www.sankei－fukusi.or.jp）の施設からの報告

平成17年2月12日 産経

２月１２日（土）産経新聞より